

埼玉県納税貯蓄組合総連合会会長賞

加須市立加須平成中学校 一年 堀口 花

税金というしくみを次世代に

「わが身を川に投げ入れれば荒れ狂う川を鎮められる」

物語のクライマックスです。私は、地域のミュージカル団体に所属しています。ミュージカル団体の代表作品に「いち」という物語があります。「いち」の物語は、実際に私の住んでいるまちの、江戸時代のお話です。村人は、元気に助け合いながら暮らしていましたが、大雨の度に、川のてい防が決壊し、田畑や家が水没し、困り果ててしまいます。川のはんらんを防ぐために、村人の「いち」は、命を投げて川に飛び込み、川のはんらんを鎮めようとします。人の命と引き換えに、村を守ろうとした伝記的な物語です。

私は、この台本を読んだ時、今がいかに恵まれているか、考えさせられました。そして、現在に置き換えた時、川のはんらんは、てい防がしっかりと整備され、私たちは安心して暮らすことができます。そのてい防は誰が整備したか。国や自治体になります。国や自治体のお金は何か。税金になります。税金は、私たち国民が納めたものです。つまり、みんなの力でてい防を整備し、安心して暮らすことができます。

国の令和6年度の予算で、てい防などの公共事業は、6兆828億円となっています。想像もつかない金額ですが、私の身近な税金である消費税の合計が23兆8230億円なので、消費税の25%が公共事業ということになります。中学生になり、自分で買い物をする機会が増えましたが、払った消費税の25%は、安心した暮らしを守るために納めていると思うと、私は社会の一員になったような気持ちになり、うれしくなります。

今は、「いち」が言う、荒れ狂う川も、みんなの税金で、それを鎮めることができる時代です。「いち」は私たちに伝記的な物語として、川の怖さ、そして命の尊さを伝えてくれました。私たちができることは、税金というしくみを次世代に繋げていくことだと思います。そのためにも税金について、私たちはもっと勉強しなければなりません。

私は勉強しようと、教科書を手にとると、裏表紙に、

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

と書かれていました。身が引き締められました。税金というしくみを次世代に繋げ、安心して暮らせる社会を築きたいです。